

HRM

人的資源管理研究会報告

青木宗明
 海老澤栄一
 関口博正
 照屋行雄
 (代表)

(あいうえお順)

研究概要

2年前に、会計学・経営管理論・財政学と分野の異なる研究者が集まり、人間を資源として見なすことの意義を共同で研究することになった。会計学からは「人的資源会計」、経営管理論からは「人的資源管理」、財政学からは「国という視点からの人的資源」という触れ込みで研究がスタートした。研究の方法としては大きく分けて、文献解題とインタビュー調査の二つを採用した。共

同で解読した文献は専門書、専門雑誌を含め報告書の最後に集約したとおり、一八点に達した。またインタビュー調査は二年間に大学研究者二名、企業二社を聞き取り調査した。インタビュー調査先一覧も報告書の最後にまとめてあるとおりである。理論および実践を有識者から学ぶことができ、きわめて有意義であった。

われわれの共同研究の方向は、人的資源を広く経営資源の一つとしてとらえ、その理論的基盤を構築すること

にあった。遠大な目標ゆえ、必ずしも成功したとはいえないけれども、研究の途中経過を報告することによって今後の研究の一里塚としたい。

ただ残念だったのは、財政学を専門とする青木が健康を害し、積極的に研究活動に参加できなかったことである。人的資源のような広域にわたる研究テーマの場合、伝統的な人事・労務管理の物差しでのみ計るのではなく、むしろ異なった分野の分析視点から分析することがかなり有効的であると考えられる。青木のもつ才能を引き出せなかったのが、かえすがえすも心残りである。共通問題を探索し、機会を改めて同種テーマについての共同研究に取り組んでみたい。

(えびざわ・えいち／経営学部教授)